

あてつまんさく

新見の農業情報

普及だより 2016 年号



新見農業普及指導センター

目 次

1	担い手確保と育成	1
	（1）園芸作物の担い手確保による産地活性化	1
	（2）集落営農法人の収益向上を目指して	3
	（3）集落営農法人で和牛放牧経営が広がっています	3
	（4）水田営農：集落営農組織の法人化と組織活動支援	4
2	次世代フルーツの生産拡大	4
	（1）もも新品種「岡山P E H 7、8号」の試作結果について	4
3	マーケティング戦略の展開	5
	（1）新見オリジナルりんどうの育成	5
	（2）消費者目線で加工品を考えるきっかけに	5
4	ブランディングの推進	6
	（1）シャインマスカット（晴王）の高品質果実生産に向けて	6
	（2）褐色根腐病に強い台木はこれだ！	6
	（3）イチゴ新品種「岡山S T B 1号」の栽培実証	7
	（4）水稻のさらなる省力化を目指して	7
5	農業者の活動支援	8
	（1）地域に貢献できるクラブ活動を目指して	8
	（2）新見農業士会がぶどう、トマトの参入就農者と意見交換	8
6	鳥獣害対策	9
	（1）集落ぐるみで獣害対策に取り組みましょう	9
7	今年輝いた人	10
	（1）平成28年度 岡山県農林漁業功労者表彰	10
	（2）平成28年度 新見市ピオーネ共励会	10
	（3）平成28年度 新見市桃共励会	10
	（4）平成28年度 新見市花卉共進会	11
	（5）平成28年度 岡山県ピオーネ・オーロラブラック共進会	11
	（6）第71回 岡山県畜産共進会	11

■ 1 担い手確保と育成

（１）園芸作物の担い手確保による産地活性化～産地に新たな力続け～

新見市の特産である園芸品目（ぶどう、もも、トマト、りんどう）は、近年生産量と金額は現状を維持しているものの、栽培者が減少しており、今後の産地の維持発展に課題が見られます。

そこで普及指導センターでは、園芸品目の担い手を確保するために、3つの支援（①新規参入者の確保支援、②栽培開始前の技術支援、③参入後の技術支援）を実施しました。

①新規参入者の確保支援～新規参入者の受入について～

本年度も、市役所を中心に関係機関が連携して、就農相談会や短期体験研修、就農オリエンテーションにより、市外からの参入者を受け入れ、農業体験研修（1か月研修）を2組（ぶどう）で実施しました。現在の農業実務研修生（1～2年研修）はぶどう5人、トマト1人、りんどう1人の合計7人で、次の表のとおりです。

研修地域	作 目	研修生	受入農家	研修期間
豊永	ぶどう	上田英世	中山正己	H28. 4～H30. 3
豊永	ぶどう	村本英夫	田中邦男 吉岡朝晴 清原 保	H28. 8～H30. 7
草間	ぶどう	野田山裕一	野中文子	H28. 4～H30. 3
草間	ぶどう	浴中 学	森川孝憲	H28. 4～H30. 3
足見	ぶどう	長濱健一	藤野幸一	H28. 3～H29. 2
神郷高瀬	トマト	鎌田 茂	橋本澄男	H28. 4～H29. 3
哲多町大野	りんどう	池川博泰	奥山 亮	H27. 12～H28. 11

各生産部会の研修受入農家の方々には、日々の技術指導から就農準備まで幅広い御指導を頂いています。また、地域においては、就農促進連絡会議、人・農地プラン会議で御協力を頂いています。現在、空き家や空き圃場のリストを作成しており、研修地域の方々には情報提供をお願いします。

今後、栽培開始に当たり、資金が必要となりますが、施設等の準備には青年等就農資金、運転資金等には青年就農給付金（開始型・44歳以下：年間150万円）が活用できるので、関係機関と地域が連携して円滑な経営開始を支援することができると考えています。



トマト農業実務研修の様子

②栽培開始前の技術支援～就農準備講座と新規栽培時の技術改善～

4品目で講座を開催し、定植や枝管理、収穫作業体験や基本技術の講習を行いました。主に現場で実践されている技術に触れてもらうため、講座生受け入れの各生産部会の方々には大変お世話になりました。その結果、25人の参加者のうちトマトで2人、りんどうで1人の受講生が新たに栽培の準備を始めることができました。

また、新たに始める方の様々な栽培上のハードルを下げることを目指して、次のことに取

組みました。

ぶどうでは、幼木管理マニュアルを作成しました。新規栽培者に配布して、失敗しない若木育成に生かすことが出来ると考えています。

ももでは、散布資材による晩霜対策の実証を行いました。一定の効果が確認できましたが、引き続き検討を行います。

トマトでは、新規栽培者が取り組みやすい低コストな傘型雨よけ栽培の改善を検討しました。日射制御型かん水装置を組合せることで、傘型栽培での草勢管理が向上して収量の増加が期待できます。

りんどうでは、被覆肥料による、生育の安定と省力化を図りました。新規栽培者が適期に肥料を効かせ、丈の長い品質の高い切り花を出荷することができるようになります。

以上の成果を踏まえ、来年度は更に新規栽培者が取り組みやすい環境を整備していきます。

③参入後の技術支援～新規参入者の経営確立に向けて～

・作業管理ソフトの活用

栽培開始後、早期に経営を安定させるためには、まず現状を把握することが大切です。そこで作業管理を把握するために作業管理ソフトを導入しました。本年度はぶどうで実施して、作業管理ごとの目安になる時間を確認することができました。今後は、他の人や年度の違いを比較して、作業改善に生かす予定です。興味のある人は普及指導センターまで、問い合わせください。

・複式簿記研修

経営状況を把握するために2日間連続で、複式簿記研修を実施し、複式簿記を手書きとパソコンで行いました。やはりパソコンがとても便利でミスが少なくて良いようです。今後、消費税、決算や申告と幅広く学んでいくために、引き続き、普及指導センターの経営研修を御活用ください。

・個別巡回による対応

4品目について、新規栽培者の個別重点巡回指導を実施しました。

ぶどうでは、適期の枝管理と適正な房作りにより品質が向上し、対象者の約7割が部会平均を上回りました。

ももでは、摘果作業の徹底と栽培管理の適期実施により、対象者の約半数でロイヤル率（糖度12%以上）が部会平均を上回りました。

トマトでは、初期のかん水管理の適正化により、収穫初期の草勢低下が軽減され着果が向上しました。

りんどうでは、病虫害防除を中心とした個別巡回により、病害による秀品率低下を防ぎ、対象者の半数が株当たり切り花本数で部会平均を上回りました。



ぶどう個別巡回の様子

来年度も、園芸4品目の担い手育成に向けて、本年度の成果を生かし各生産部会の方々と連携して総合的な支援を行いますので、関係者の皆さんの御協力をお願いします。

(2) 集落営農法人の収益向上を目指して

新見市内には平成23年以降に設立された集落営農法人が5つあります。いずれも、任意の集落営農組織を母体にして、農業者の高齢化に伴う農地の維持と、今後の地域の活性化を図るため、農事組合法人が設立されています。農地中間管理事業を活用して農地を集積し、集落内の水田農業経営の中心的な担い手になっています。

水稻主体の経営ですが、米価が低迷している中で、収益性を高める取組を行っている法人があります。関係機関と連携して、和牛放牧や野菜の契約栽培を経営に導入し、収益向上を目指しています。子牛が高く販売できたり、野菜の出荷量が増えることで、法人の収益が高まります。また、集落の多くの方が作業に携わり、その労働に対して労賃が支払われるなど、収益が集落に還元されることは大きな意味を持っています。集落のまとまりが強まることは、集落営農法人設立の1つの成果と言えます。

今後も、放牧牛の飼養管理や、野菜の栽培管理を徹底し、法人の収益を高めていくことが望まれます。



出荷中の契約野菜

(3) 集落営農法人で和牛放牧経営が広がっています。

新見市内の集落営農法人2法人で、和牛放牧の取組が昨年からはじめています。放牧による和牛繁殖経営2年目の（農）潮営農組合では、今年新たに1頭を増頭しました。また、県畜産研究所のレンタル牛による、お試し放牧を行った（株）米見では、今年から、放牧牛を2頭導入し、和牛繁殖経営を開始しました。また、任意組織においても、レンタル牛によるお試し放牧が行なわれ、来年に向けて放牧による和牛繁殖経営を検討しています。

集落営農組織等が、次々と放牧を活用した和牛繁殖経営へ参入する背景には、①耕作放棄地の解消、②水田活用直接支払交付金による経営安定、③好調な和牛子牛市場価格、④集落組織による飼養管理の分担と放牧地集積の容易さ、⑤放牧による省力的な飼養管理、利用等があると思われます。

和牛飼養管理の経験の無い組織でも、レンタル牛のお試し放牧をして、飼養管理や放牧管理を体験しているため、スムーズに牛の導入ができています。お試し放牧は、基本無料（※消耗品は自己負担）で行えます。

さあ、皆さんの集落でも、お試し放牧から始めてみませんか？（お試し放牧の御相談は普及指導センター、県民局畜産班、市役所農林課、JA畜産課までお願いします。）



導入牛が、子牛出産 11月21日

(4) 水田宮農：集落営農組織の法人化と組織活動支援

普及指導センターでは、認定農業者や集落営農組織等の方々の経営に係る研修会の開催や情報を提供していますので、その一部を紹介します。



経営分析・パソコン複式簿記記帳研修



農事組合法人の会計・税務研修

簿記記帳は、申告のためだけにしているのではありません。生産結果とともに簿記記帳の結果を見返したり、昨年と比較してみたりと、自家の経営改善に役立てましょう。

研修時には、農家経営に役立つ情報提供や

相談にも応じていますので、是非参加ください。

また、昨年農事組合法人を立ち上げ、認定農業者となった3法人に対して、初めての決算の留意点や次年度の活動を考える研修会を開催しました。

今後、「こんな研修をして欲しい。」「こんな情報が欲しい。」等の御要望をお知らせください。

■2 次世代フルーツの生産拡大

(1) もも新品種「岡山 PEH7、8 号」の試作結果について

平成27年から草間地区で試験栽培を行っている岡山県が育成した白桃の極晩生2品種（岡山PEH7号【おかやま夢白桃×白麗】、岡山PEH8号【清水白桃の自然交配】）について、今年度、初収穫ができました。

新見での収穫時期はまだ未確定ですが、7号は「ゴールデンピーチ」出荷前の9月上旬頃、8号は「ゴールデンピーチ」と同時期の9月中旬頃と思われます。

今回の調査結果は、収穫後すぐに食べられる硬さでしたが、両品種とも若木としては玉太りが良く、糖度が高く（特に7号は高すぎるとの意見も・・・）食味はおおむね良好でした。しかし、裂皮や果皮色など外観には課題が残りました。

引き続き、果実品質と合わせて、栽培特性や収穫時期の見極めなど、新見での適応性を確認していきます。



7号

8号

調査果実

表：試作品種の果実品質（2年生樹）

品種名	調査果実 収穫日	果実重 (g)	糖度 (brix)	備考
PEH7号	8/31	276	18.1	今回はやや過熟。裂皮あり。
PEH8号	9/9	343	16.3	今回はやや過熟。果皮に緑色残る。渋み。

※両品種ともオレンジ点貼り袋を使用。

■3 マーケティング戦略の展開

(1) 新見オリジナルりんどうの育成

りんどうの需要期である8月の旧盆や9月の彼岸の出荷は、主産地との競合が年々厳しくなっています。反対に、6～7月上旬や10月以降の出荷は全体的に少なく、主産地より温暖な岡山県での生産が有利と考えられています。また、花がひらくササ系りんどうは青以外にピンクなどの花色があり、洋花としての利用もあることから、小売店からはササ系りんどう生産の要望が高くなっています。しかし、現在ササ系りんどうの市販品種は培養苗が多く、価格が高く入手も困難な状況です。



ササ系の有望株（青色、ピンク色）

こうした状況を打開するため、平成27年度から生産者が10月出荷向けを中心としたササ系りんどうを育成してきました。育成系統は、ばらつきが大きくそのままでの導入は難しいのですが、系統の中には有望な株も出てきました。

そこで、新見オリジナル品種を産地に導入するため、本年度から有望株の茎頂培養を始めました。

(2) 消費者目線で加工品を考えるきっかけに ～6次産業化研修会～

普及指導センターでは「農業の6次産業化」を推進するために、生産から加工、販売の流れの中で、買う側の視点を持って商品づくりを考える研修会を開催しました。

10月25日（火）に新見地域事務所で、(株)あしたねBooの山本ケイジロウ氏を講師に「消費者に選ばれる加工品づくり」と題して講演がありました。商品のネーミングやパッケージデザインの例示もありました。



消費者心理をデザインに生かす

講演の主な内容は、次のとおりでした。

- ①デザインは製品づくり（レシピ）の段階から始まる。
- ②消費者を見据えたデザイン、商品展開をすることが大切である。
- ③固定概念をはずし、横のネットワークをつくり商売を展開していく。

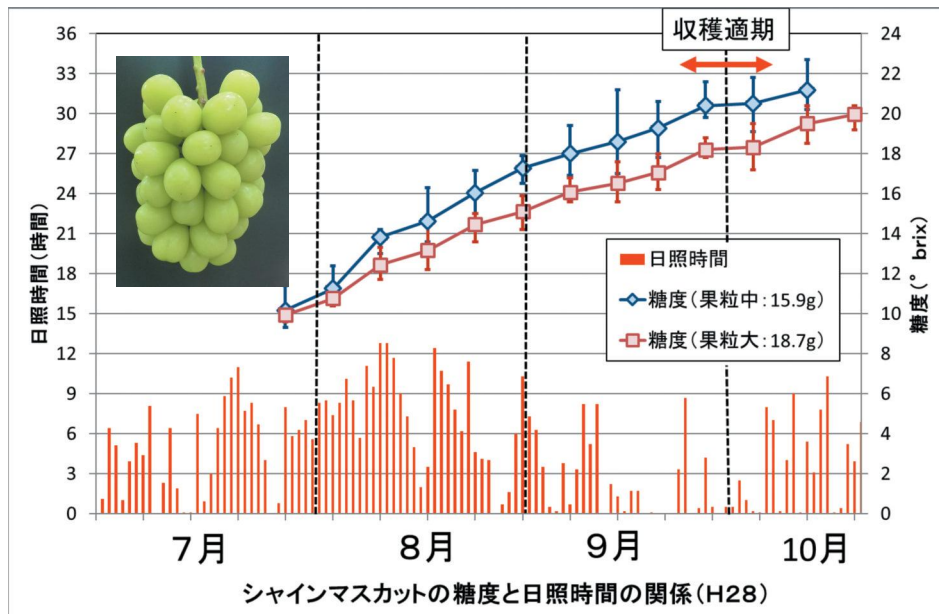
市・農協・商工会議所・商工会・普及指導センターは、6次産業化推進のために広域で連携会議「備北広域6次化ふえ」を毎月開催しています。6次産業化を志向する農家の情報を共有し、新見の特色を生かした農家の取組に向け、関係機関で支援していきます。

■4 ブランディングの推進

(1) シャインマスカット(晴王)の高品質果実生産に向けて

シャインマスカットは、ピオーネに続く「次世代フルーツ」として、栽培面積、出荷量を伸ばしており、新見市では6.5ha栽培されています（H28.3現在）。市場からは他産地に負けない、より大粒で、糖度の高い食味良好なブドウを要望されています。特に糖度については、ピオーネを上回る18度以上が目標です。

平成28年のような成熟が早く、糖度が高くなった年でも、バラツキが少なく安定して糖度18度以上になる時期は、9月下旬～10月上旬頃です。果粒が大きいほど糖



度上昇は遅れることがわかりました。また、9月の日照不足の時には、糖度の上昇は緩慢となり、日照に大きく影響されることがわかりました。新見地域の簡易被覆栽培で糖度18度以上のシャインマスカットを生産するには、栽培基準に沿った房の大きさ、着果量を厳守し、早取りに注意し適期収穫することが大切です。

(2) 褐色根腐病に強い台木はこれだ！

トマトを連作すると、土壌病害の褐色根腐病が増えてきます（図1）。この病気にかかると、水や肥料を吸収する細根がなくなり、生育が悪くなります。本年度、この病気の対策として台木3品種を比べてみました。結果は、グリーンフォースという台木が強いことがわかりました（図2、表1）。



図1 褐色根腐病



図2 グリーンフォース

表1 台木別発生程度

台木品種	調査株数	発生程度
自根(エイト)	12	3.0
トリパー	12	1.3
スパイク	12	1.8
グリーンフォース	8	0.0

評価方法
 0：褐変面積が5%未満
 1：同25%未満
 2：同25%以上50%未満
 3：同50%以上75%未満
 4：同75%以上100%

(3) イチゴ新品種「岡山STB1号」の栽培実証

新見市いちご研究会（事務局：普及指導センター）は、高冷地での栽培に適し、県産が出回らない夏から秋にかけて出荷できるイチゴの新品種「岡山STB1号」の栽培実証を神郷高瀬地区のハウスで行っています。

この品種は、県農業研究所高冷地研究室が育成した耐暑性の強い四季成り性品種で、同研究室から試作用として配布された親株を27年秋に定植し、本年の夏にかけて採苗、育苗した子苗をイチゴ高設栽培システム「はればれプラント」のプランターに定植しました。



収穫初期の「岡山STB1号」

梅雨明け後からの猛暑や9月の日照不足の影響が懸念されましたが、株の生育は概ね良好で順次開花し、11月初旬には果実を初収穫することができました。

同研究会では、今後、越冬させた子苗を春に定植する作型の実証を行うとともに、有望な四季成り性のイチゴを試作、検討し、市内高冷地の新たな特産果物として夏秋イチゴの産地化を目指す予定です。

(4) 水稻のさらなる省力化を目指して（密播疎植栽培）

普及指導センターは、（農）ファームやだたに鯉が窪、JA、農機メーカーと連携して、省力技術の「密播疎植栽培」の実証を行いました。

「密播疎植栽培」とは、①一箱にたくさん播種して育苗し、専用田植機で植え付けることで苗箱数を減らす技術、②株間を広げて植える技術を組み合わせた栽培法です。

メリットとして、苗箱数を大幅に減らすことでコスト削減、育苗や運搬に要する労力の軽減が可能となります。



密播疎植実証ほ（哲西町矢田谷）

実証結果は、10a当たり苗箱数が、密播疎植区で6.5箱と慣行区の約40%となり、収量は、慣行区対比97%とほぼ同等でした。また、10a当たり育苗経費は、密播疎植区6,071円で慣行区の52%と約半分でした。平成29年度も引き続き、実証を行い初期の生育確保や病虫害対策等などについて確認

を行う予定です。

表 実証結果

区 名	箱 数 (箱/10a)	精玄米重 (kg/10a)	育苗経費 ^z (円/10a)
密播疎植区	6.5	643	6,071
慣 行 区	16	661	11,588

供試品種：コシヒカリ

栽植密度：密播疎植区43株/3.3m²、慣行区50株/3.3m²

1箱当たりの播種量(催芽籾)：密播疎植区330g、慣行区250g

^z 育苗経費には密播疎植(本田)に施用した、いもち剤の経費は含まず

■5 農業者の活動支援

(1) 地域に貢献できるクラブ活動を目指して

農業後継者によって組織される新見地方新農業経営者クラブ（会員数44人）の活動を紹介します。

1 課題解決活動

クラブ員の資質向上と地域貢献を目的に、農業や地域の課題を解決するための試験・調査を各支部でクラブ員が協力して行いました。今年は、小房ぶどうの試作、竹の有効利用、水稻のプール育苗等に取り組んでいます。

2 視察研修

先進的な経営手法を学ぶため、兵庫県の大手流通企業傘下の農場と有機農業体験宿泊施設での研修を行いました。

3 ソフトボール大会

岡山地域、東備地域、高梁地域の後継者クラブから95人が大佐グラウンドに集まり、クラブ対抗ソフトボール大会を開催し、家族ぐるみで交流しました。

4 地域イベントへの参加

後継者クラブとしてJ A阿新まつりに出店し、千屋牛肉のバーベキューを販売することで、千屋牛を宣伝しながら祭りを盛り上げました。

今後も普及指導センターは、後継者活動がより発展するよう支援していきます。



課題解決活動（竹の有効活用）

(2) 新見農業士会がぶどう、トマトの参入就農者と意見交換

新見農業士会（会長：田中邦男）は、岡山県農業士11人と退任した6人が在籍しており、行政機関への提言や担い手育成の活動・支援等を実践しています。

今年度は、提言活動の一環として11月11日(金)、参入就農者で活躍している3人(ぶどう2人、トマト1人)を迎え、「新見の農業を語る会」を開催しました。参入就農時の体験談（苦労したこと）や現状の課題を聞き、新規就農者の受入体制（土地・住居、条件、研修等）、就農後の支援について意見交換を行いました。



参入就農者との意見交換

募集では、他地域よりも有利な条件や農地と住居の確保が重要であり、実際の就農では、施設導入時の負担軽減（資金活用、施設のレンタル等）が施策として求められていました。また、就農後の問題も聞くことができ、結果は関係機関に報告し、検討することになりました。農業士会として、新見市の基幹作物のぶどう、トマト、りんどうの産地振興には新規就農者の確保・育成は欠かせないものと考えています。ぶどう、トマトの団地造成も始まり、参入者の増加が見込まれることから、参加者全員、新規参入者の研修・受入に意欲を新たにしています。

■6 鳥獣害対策 ～集落ぐるみで獣害対策に取り組みましょう!!～

☆ 獣害対策の基本

獣害対策は次の3つの足し算で効果が上がります。

「囲って侵入を防ぐ」＋「適切に駆除する」＋「エサを減らす」

田んぼの周りを電気柵で囲っても、わなや銃で駆除しても、田んぼや集落に獣のエサがあれば、被害を減らすことはできません。田んぼに捨てられた生ゴミや野菜くず、畑に放置された収穫しない野菜や、管理されていない果樹などがあれば、獣が魅力的なエサ場として覚え、どんどん集落に近づいてきます。無意識の餌付けになっているのです。「囲う」、「駆除する」努力を実らせるために、集落内の「エサを減らす」対策に取り組みましょう。



集落点検（放置された柿）

I 獣害対策についての知識向上!!

集落会議や研修会への参加を通じて、イノシシなどの生態や習性を知り、「何が餌付けになるのか」を集落のみなさんが理解し、集落のどこが・何が餌付けになっているかに気付いたり、話し合ったりしましょう。

II 集落点検を行い、点検マップを作りましょう!!

獣の目線で、どこが隠れ場所になるか、何がエサになるか、集落内をみなさんで点検（現状把握）してみましょう。現状を地図に落とす（集落点検マップ）ことで気付くこともあり、何ができるのか考えてみましょう。

III 集落の環境を改善しましょう!!

獣の多くは人の気配をととても気にしています。不要樹木や雑草を刈り、山と里を区別する緩衝帯を作って、「集落には近づかない方がよい」と認識させましょう。水稻収穫後は、早めに田んぼを耕うんし、ひこばえの発生や雑草の繁茂を抑えます。



緩衝帯の整備

IV 防護対策と捕獲に取り組みましょう!!

電気柵などで田畑を囲う防護柵は、柵内の農作物の食害を防ぐ有効な対策です。狩猟免許取得者等と相談し、檻やわなによる捕獲も併せて行いましょう。

■7 今年輝いた人

(1) 平成 28 年度 岡山県農林漁業功労者表彰

平成 28 年 11 月 16 日、県庁で農林水産業振興のための献身的な活動が特に顕著なことが評価され表彰されました。

◎知事表彰（農産部門）

石川 至海（草間）

◎農林水産部長賞（農産部門）

藤野 幸一（草間）

(2) 平成 28 年度 新見市ピオーネ共励会

平成 28 年 9 月 21 日に開催されました。出品点数は 50 点で、平均果粒重 18.7g、平均糖度 18.8 度、最高は 21.0 度でした。

◎最優秀賞 岡山県知事賞

小梶百合子（美穀）

◎優 秀 賞 新見市長賞

浅田 裕基（豊永）

〃 備中県民局農林水産事業部長賞

家本 弘彦（豊永）

〃 岡山県農業協同組合中央会長賞

藤野 功（草間）

〃 全国農業協同組合連合会岡山県本部長賞

長嶋 好伸（豊永）

〃 岡山県農業共済組合連合会長賞

吉岡 博（豊永）

(3) 平成 28 年度 新見市桃共励会

平成 28 年 7 月 21 日に開催され、白鳳、浅間白桃を中心に合計 39 点の出品があり、糖度は平均 13.6 度、最高 14.9 度でした。

◎最優秀賞 新見市長賞

井上 誠（草間）

◎優 秀 賞 備中県民局長賞

田中 三雄（草間）

〃 備中県民局農林水産事業部長賞

福水 静栄（草間）

〃 岡山県農業協同組合中央会長賞

堀江 利明（草間）

〃 全国農業協同組合連合会岡山県本部長賞

中山 和幸（豊永）

(4) 平成 28 年度 新見市花卉共進会

平成 28 年 9 月 14 日に開催され、りんどう、小菊、トルコギキョウ等、合計 35 点の出品がありました。また、翌日には一般展示されました。

◎最優秀賞	新見市長賞	(りんどう)	上田ちず子	(野馳)
◎優 秀 賞	備中県民局長賞	(りんどう)	奥山 亮	(新砥)
〃	備中県民局農林水産事業部長賞	(トルコギキョウ)	白石 昌義	(矢神)
〃	岡山県農業協同組合中央会長賞	(りんどう)	三好 充	(野馳)
〃	全国農業協同組合連合会岡山県本部長賞	(りんどう)	大島 節子	(野馳)
〃	〃	(りんどう)	難波 治	(野馳)

(5) 平成 28 年度 岡山県ピオーネ・オーロラブラック共進会

平成 28 年 7～9 月に作型に合わせて 3 回開催され、ピオーネ 208 点、オーロラブラック 44 点の出品がありました。J A 阿新からは 30 点 (ピオーネ 20 点、オーロラブラック 10 点) の出品がありました。

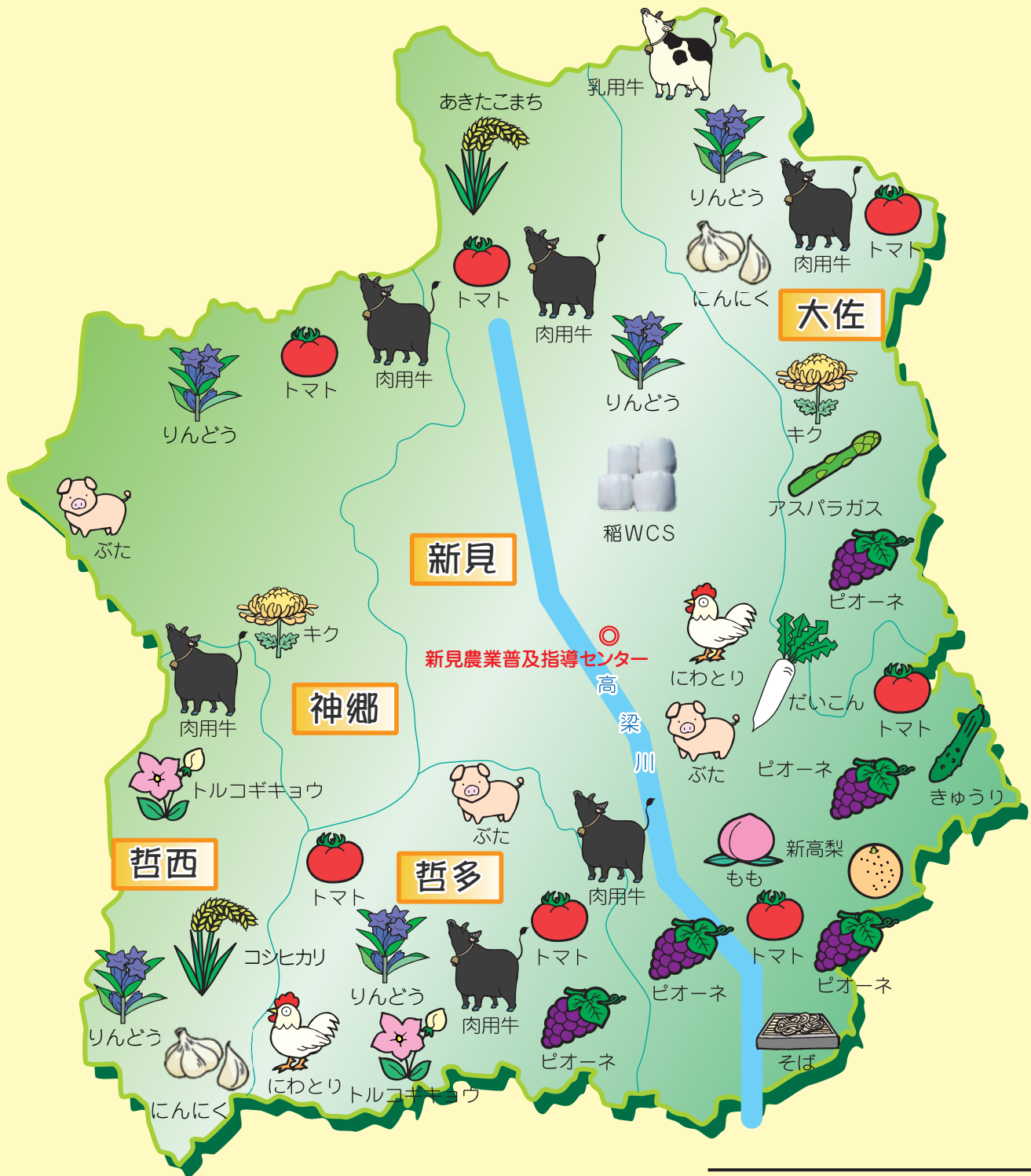
◎岡山県知事賞	(ピオーネ)	米谷 信義	(豊永)
◎奨 励 賞	(ピオーネ)	古川 大輔	(草間)
〃	(ピオーネ)	藤野 幸一	(草間)
〃	(ピオーネ)	福田 昇	(豊永)
〃	(ピオーネ)	尾崎 宏志	(豊永)
〃	(ピオーネ)	岡本 健吾	(草間)
〃	(オーロラブラック)	篠田 武夫	(草間)
〃	(オーロラブラック)	清原 保	(豊永)

(6) 第 71 回 岡山県畜産共進会

平成 28 年 10 月 16 日、真庭市の総合畜産市場で開催されました。県内各地の予選を勝ち抜いた肉用種々牛 51 頭、乳用種牛 88 頭が出場しました。

◎団体優勝	肉用種々牛の部	新見市
◎グランドチャンピオン	若雌区の 3 「第 10 あおき」	有藤 剛 (哲多)

新見市の主な農畜産物



岡山県備中県民局農林水産事業部
新見農業普及指導センター

〒718-8550 岡山県新見市高尾 2400

担い手・農産班 TEL(0867)72-9177

園芸班 TEL(0867)72-9179

FAX(0867)72-0495

e-mail: niimi-fukyu@pref.okayama.lg.jp

ホームページ Facebook 新見農業 検索



ホームページ
QRコード



Facebook
QRコード